

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）

県政の課題（テーマ）報告書

平成 29年 8月 10日

山梨県知事 殿

本人氏名 浅田早恵

留 学 先 アメリカ合衆国・アイオワ州

留学期間 平成28年月8月1日～平成29年8月1日

研究の課題（テーマ）

地域のにぎわいの創出、活力ある商店街や中心市街地づくりに向けた取り組みを進めるための方法について

提出内容

与えられた県政の課題（テーマ）の解決に導く考え方及び対応策等

地域のにぎわいの創出、またそれに伴う地域のコミュニティの構築を目的とし、山梨の商店街や中心市街地活性化についての案を提案する。私は、1年間アメリカのアイオワ州に留学をし、その都心で開催されていた様々なイベントに参加をしてきた。ここでは、そこで開催されていた「Farmer's market」や「アジアンフェスティバル」について述べ、参加者視点と客視点で分けて考察をする。また、そこからコミュニティの構築がどう形成されているのかについて考え、山梨がそれをどう取り入れていくべきかについて改善案をまとめる。

アイオワ州の都心、デモインでは、5月から10月にかけてダウンタウンにおいて「Farmer's market」という大規模な青空市場が毎週土曜日に開催されている。販売者と消費者が直接コミュニケーションをとることが出来るイベントだ。

また、夏から秋は、デモインにてほぼ毎週イベントが行われている。開催されるイベントの内容は、第1週目には中国、2週目にはメキシコと、週ごとに異なる国のイベントが行われている点が魅力である。アイオワ州には、ヒスパニックや中国など、様々な人種が住んでいる。そのため、多面性のあるイベントを行うことが出来、地域に賑わいを起こしている。アイオワの「多種多様な人種が住む」という特徴を生かしたイベントである。ここでは、店側として参加をした「アジアンフェスティバル」について述べる。

添付書類

詳細について、図・表・写真などの資料も含めてA4縦版5枚以内にまとめて報告してください。

※パソコン・ワープロの使用可（使用する文字は12ポイントとしてください。）

※図・表・写真等を用いて可

① 序論

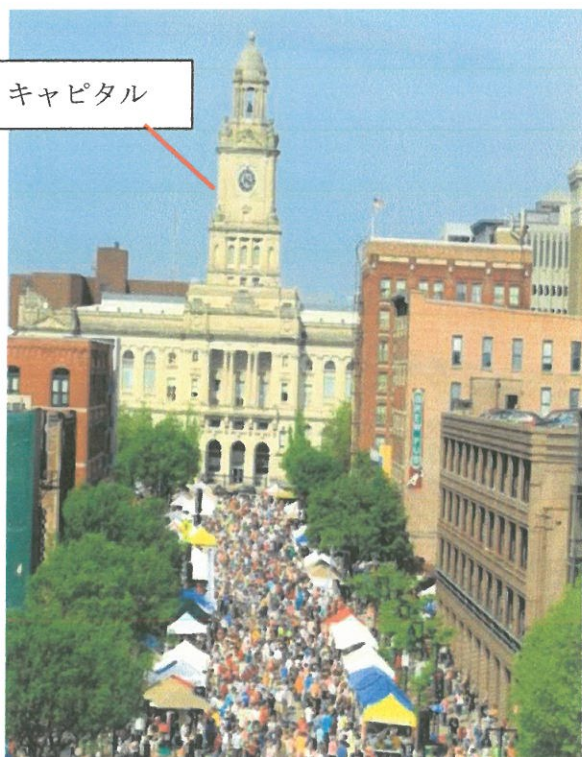
私は、留学先のアイオワ州にて、山梨の商店街や中心市街地の活性化づくりのための方法を探してきた。そこで、青空市場である「**Farmer's market**」と、外国人の移住者が運営者となる多くのフェスティバル（以下、「**多文化フェスティバル**」）に参加してきた。この報告書では、この2つのイベントに注目し、山梨の中心市街地にそれらを応用できるよう、提案をする。なお、多文化フェスティバルについては、店側として参加をした「**アジアフェスティバル**」について詳細を述べる。

② 本論

私は、「**ダイナミック山梨総合計画**」の第3章・政策6の「にぎわいを生み出す商業・中心市街地の活性化」の実現に向けた取り組みの方法として述べられている、「市町村や商工団体と連携して、空き店舗の活用やイベント開催などの取り組みを支援し、商店街の活力再生を図る」に焦点を置き、アイオワ州が取り組む2つのイベント、「**Farmer's market**」と「**アジアフェスティバル**」の長所を山梨の商店街の活力再生に活かしたいと考えている。

(1) 「Farmer's market」

アイオワ州の都市部、デモインでは、キャピタルの前の大通りを使い、5月から10月にかけて「**Farmer's market**」という青空市場が毎週土曜に開かれている。それには多くの個人経営および商店街の店が参加し、当日は露店を構えている。このイベントには、2つの注目すべき点があると考えている。それは、「継続的な開催による市民文化への定着」と「製造者と消費者の関係づくり」だ。

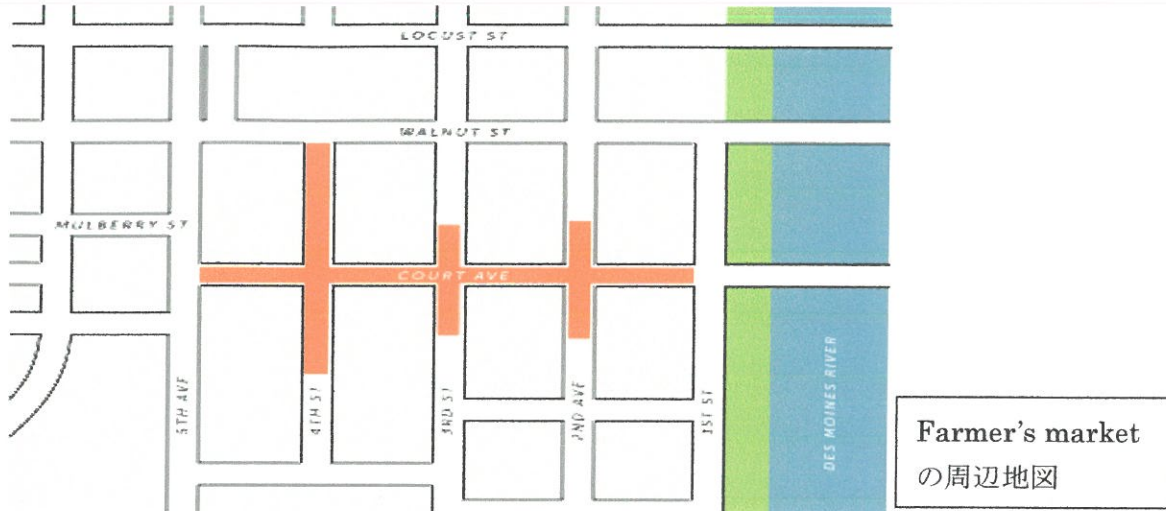


キャピタル

「Farmer's market」

5月の母の日から10月にかけて、毎週土曜に役所（左写真の中央の建物）の前の大通りにて開催。時間帯は、午前7時から昼まで。

主な運営団体は、Unity Point Health Des Moines。これは、Des Moines に位置する数病院によってサポートされている健康づくりのための団体である。



このイベントの魅力は、半年間にもわたって行われるという**長期的な開催期間**だ。**毎週行うこと**によって、**市民への意識づけが可能**になる。「土曜日にあるし、スーパーの代わりに行こうかな」と消費者側に思わせることができるだろう。また、役所の前の大通りを使うことで、誰もが気軽に買い物に行くことが可能だ。甲府駅の近くでは、頻繁にイベントが開催されているのを見るが、それらのイベントは当日の集客性はあるものの、一過性という課題を抱えていると感じる。毎週同じイベントを行い、消費者側に親しみを抱かせることで、製造者と消費者の信頼関係を作ることができると思う。それを実現するには、場所の提供など、市全体の協力が必須である。

また、先述した「製造者と消費者の関係づくり」も、この **Farmer's market** では行われている。

Farmer's market では、製造者が露店を出し、消費者と直接コミュニケーションを取っているシーンが頻繁に見られる。



山梨では、農協で製造者が野菜や果物を卸し、新鮮な製品を提供しているが、そこに、製造者と消費者のコミュニケーションが加われば、さらに良いものになるのではないかと思う。**消費者との信頼関係を築くことが可能になり**、スーパーや大型ショッピングセンターが多く位置しているなかで、**個人経営の店が活躍できる場になる**。山梨は、果物の収穫量が多く、畑も多い。山梨の特産物を活かすことが出来ると考える。

以上のことから、前述した「継続的な開催による市民文化への定着」と「製造

者と消費者の関係づくり」の両方を取り入れることで、山梨の中心市街地活性化と、山梨の畜産をサポートできると私は考えた。Farmer's marketのように継続的なイベントを生み出すにあたって、最も重要な点は、運営および製造者である店側がいかに自主性をもち、意欲があるかどうかと考える。この点については、次の「アジアンフェスティバル」について詳細を述べる。

(2) 「アジアンフェスティバル」

アイオワ州には、ヒスパニック系やアジア系など、アメリカ人以外にも多くの人種が住んでいる。この特徴を生かし、アイオワ州では夏に中央公園でフェスティバルが毎週行われる。このフェスティバルは、週ごとに種類が異なっており、メキシカンフェスティバルやドイツフェスティバルなどが開催される。どのフェスティバルでも、食べ物やダンス、展示を通して各国の紹介がされている、大変興味深いイベントとなっている。



山梨県にも外国人移住者が住んでいるが、アイオワ州ほどの規模のイベントを見たことはなく、認知度も低いと思われる。このフェスティバルは、**市民と移住者がコミュニケーションをとることが出来るイベントだ**。また、**移住者の経営する店舗が活躍できる場でもある**。地域のコミュニティを発達させていくには、移住者も含めて考えていかなければならない。そのため、このフェスティバルは、山梨の地域のにぎわいに役立つのではないかと考えている。

この多種多様なフェスティバルにおいて、私は店側として「アジアンフェスティバル」に参加をした。このフェスティバルは、日本人以外にも、中国人や韓国人、ベトナム人など、アジア圏の様々な国の方が出店をしていた。私たちの店は、日本料理を取り扱い、おにぎりやもちアイスなどを売った。参加をしてみると、客側の視点とは違った課題点なども見えてきた。

仮に山梨でこのようなイベントを開催する際は、運営側と店側の連携が必須となってくる。特に、食べ物を扱う店は食材を入手することが困難であるため、十分な準備が必要となってくる。私たちの場合は、アメリカで日本の米を入手することに苦労した。運営側は、店側がきちんと準備を行っているか、しっかりとしたコミュニケーションをとって確認をとることが必要である。そのため、運営側または店側には会話レベルの語学力が求められる。このイベントを行うことによって、移住者とコミュニケーションをとることができる機会を設けることができる。



「アジアンフェスティバル」
開催中の写真

また、「アジアンフェスティバル」含め、デモインで開催される多文化フェスティバルには、山梨で開催されるイベントにぜひ取り入れてほしい点も多くあった。フェスティバルが開催されている最中、店舗のスペースとは別に共有スペースのような場所が必ず用意されていた。そこでは、写真のような球技が行われていたり、子供の遊び場所となっていた。



「アジアンフェスティバル」の
中で用意されていた共有スペース

このようなスペースを設けることで、イベントを通して市民のコミュニティの構築にも役立つと考える。

多文化フェスティバルは、運営者側が「自分の国を知ってもらいたい」という心構えで参加をするため、非常にモチベーションの高いイベントとなっている。山梨にもぜひ、移住者とのコミュニティの構築づくりと、中心市街地活性化を目的に、開催してもらえればと思う。

③ 結論

「Farmer's market」は、地域の特産物や個人経営の店が活躍できる場だ。山梨でも、このようなイベントを通し、自然豊かな山梨の地域資源を生かしていただければと思う。

「アジアンフェスティバル」は、移住者とコミュニケーションをとることが出来る重要な機会となると考える。これから先、ますます国際化していこう山梨において、ぜひ参考にしていきたい。